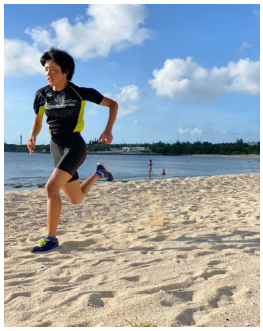
うれしい出来事!!

東京２０２０オリンピック・パラリンピックが、たくさんの大きな感動とともに閉幕しました。

特に、東京パラリンピックでは、外山愛美選手（宮崎銀行）が陸上女子４００メートル（Ｔ２０）で決勝まで進み、７位と健闘されました。おめでとうございます。
奥松美恵子コーチと二人三脚で努力してこられた様子は、テレビでも大きく取り上げられ、多くの方々から賞賛、激励をいただきました。
目標として掲げていた自己記録（日本記録）更新はかないませんでしたが、パラリンピックの舞台で懸命に走る姿を世界に見せてくれました。
本当にお疲れ様でした。

また、東京パラリンピックの開会式では、８月１２日に宮崎市で開催されました宮崎県聖火フェスティバルの様子もビデオ放映され、日髙輝政さん（宮崎県障がい者スポーツ指導者協議会初代会長）とパラ陸上女子短距離選手（Ｔ４７）の中川もえさん（西池アスリートクラブ、宮崎大宮高校）の姿がクローズアップされる場面がありました。
さらに、閉会式では、陸上男子１００メートル（Ｔ３７）の日本記録を持つ岩切基樹さん（西池アスリートクラブ、宮崎国際大学）が、掲揚される国旗を運ぶアスリートの一人として選ばれるなど、これまでの本県の障がい者スポーツを支えてきた日髙さん、２０２４年パリパラリンピックを目指す２人の若きアスリートが大きな役割を果たしてくれました。

日髙輝政さん（右）、中川もえさん
（写真：宮崎県提供）



外山愛美さん
（写真：母親提供）

岩切基樹さん（左）
（写真：母親提供）

そんな中、令和３年９月２日、４０歳台と思われる男性の方が、お姉さんとご一緒に私どもの協会を訪ねてこられました。テレビで東京パラリンピックを観て、パラアスリートの姿に大きな感動を受け、自分でも宮崎県の障がい者スポーツの推進に何か貢献できないかとの強い気持ちから、当協会に多額の寄付金をいただきました。
ご本人の強い希望で、お名前を教えていただくことはできませんでしたが、この大きな善意をしっかりと受け止め、スポーツ用具の充実など、障がい者スポーツを楽しむ皆さんに喜んでいただけるような形で使わせていただきたいと考えています。
コロナ禍の中で、１０月に予定されていた第２１回全国障害者スポーツ大会三重とこわか大会が中止となるなど、残念なことが続く中でのうれしい出来事でした。
誠にありがとうございました。